

(1) 社会実験の基本的な考え方

JR 古賀駅西口周辺整備基本方針に示した「めぐり歩いて楽しいまちなか」の整備に向けて、2つの社会実験（交通社会実験・沿道利活用社会実験）による効果を検証を実施し、今後の整備や活動に反映する。

古賀駅西口周辺整備の実施に向けた検討ステップ

【エリアの交通方針】

『駅前広場の再整備』

・通過交通の抑制と、歩行者ネットワークにつながる歩行環境に配慮した駅前広場を再整備する。

『シェアスペースによる回遊性向上』

・歩行者優先の設えにより、自動車速度を抑制し、歩行者が安全に回遊できる道路空間を目指す。

『シンボル空間軸の創出』

・古賀駅西口への自動車のメインアプローチであるとともに、来訪者のまちなか回遊の起点となるシンボル空間軸を創出する。

『多様なにぎわいによる回遊性向上』

・沿道の空地や空家を積極的に活用し、多様な賑わいを創出することで回遊性の向上を図る。

『まちかどの魅力向上』

・歩行者ネットワークの交点では、歩行者が滞留したり楽しんだりできる機能を配置し、まちかどの魅力向上を図る。

【社会実験の基本的な考え方】

交通社会実験

- ・駅前広場整備につながる駅前広場の交通パターンの実施
- ・通過交通を抑制する交通体系の実施
- ・歩きやすい歩行者動線

効果検証

- ・自動車交通量
- ・歩行者実態
- ・アンケート等

沿道利活用社会実験

- ・まちかどの魅力向上を中心とした機能配置、賑わい創出による回遊性の向上
- ・地元事業者等との連携による沿道空間の利活用

効果検証

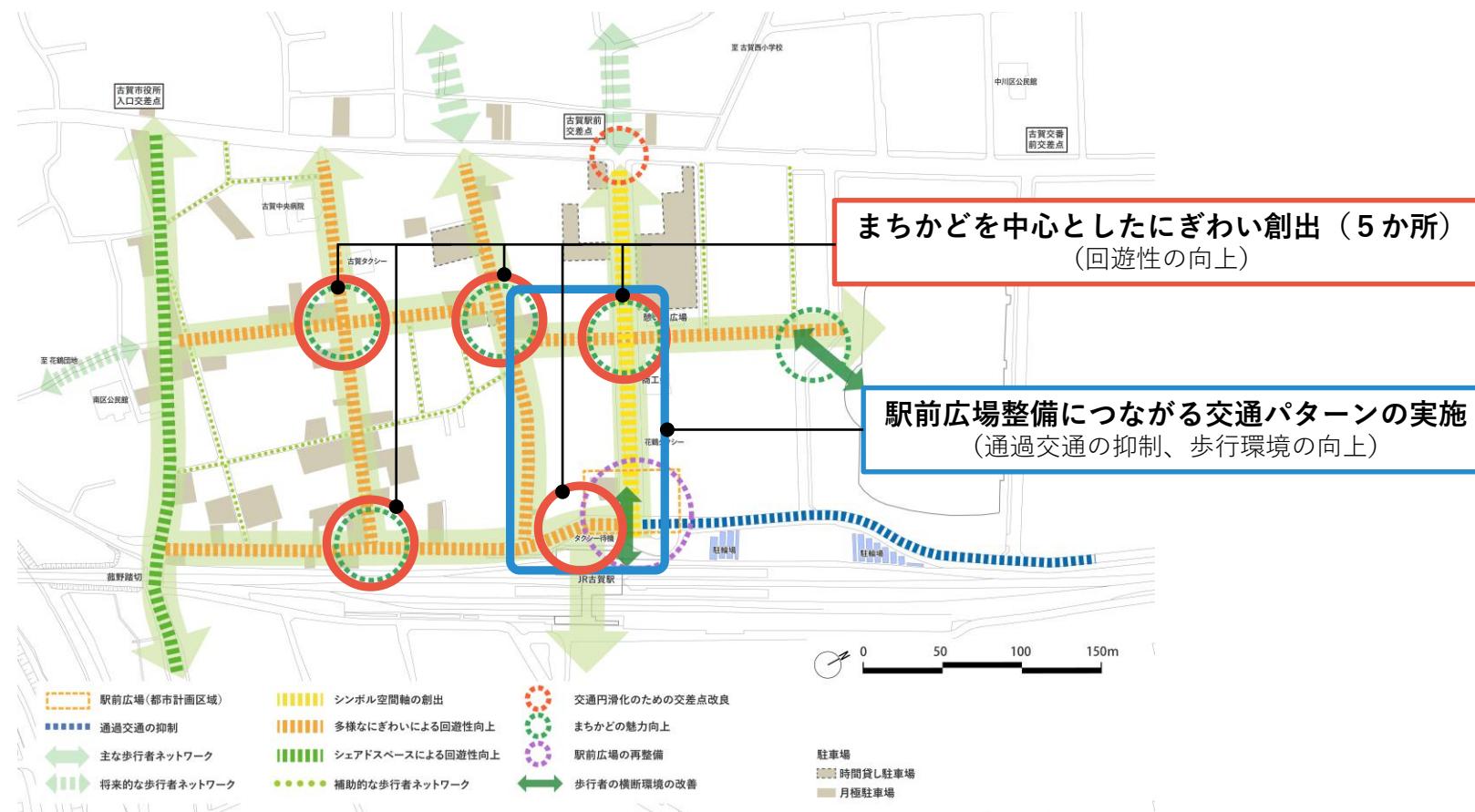
- ・歩行者実態
- ・利用者アンケート
- ・参加事業者アンケート等

【成果を活かした取組】

- ・駅前広場の計画・整備
- ・交通体系見直し
- ・歩行者優先の道路空間の計画・整備

- ・まちかど空間の整備
- ・空地・空家の利活用
- ・地元事業者等と連携した取組の継続

社会実験の実施対象 ※JR古賀駅西口周辺整備基本方針 道路体系の方針図（狭域）に追記



交通社会実験 (2025年10～11月頃実施予定)

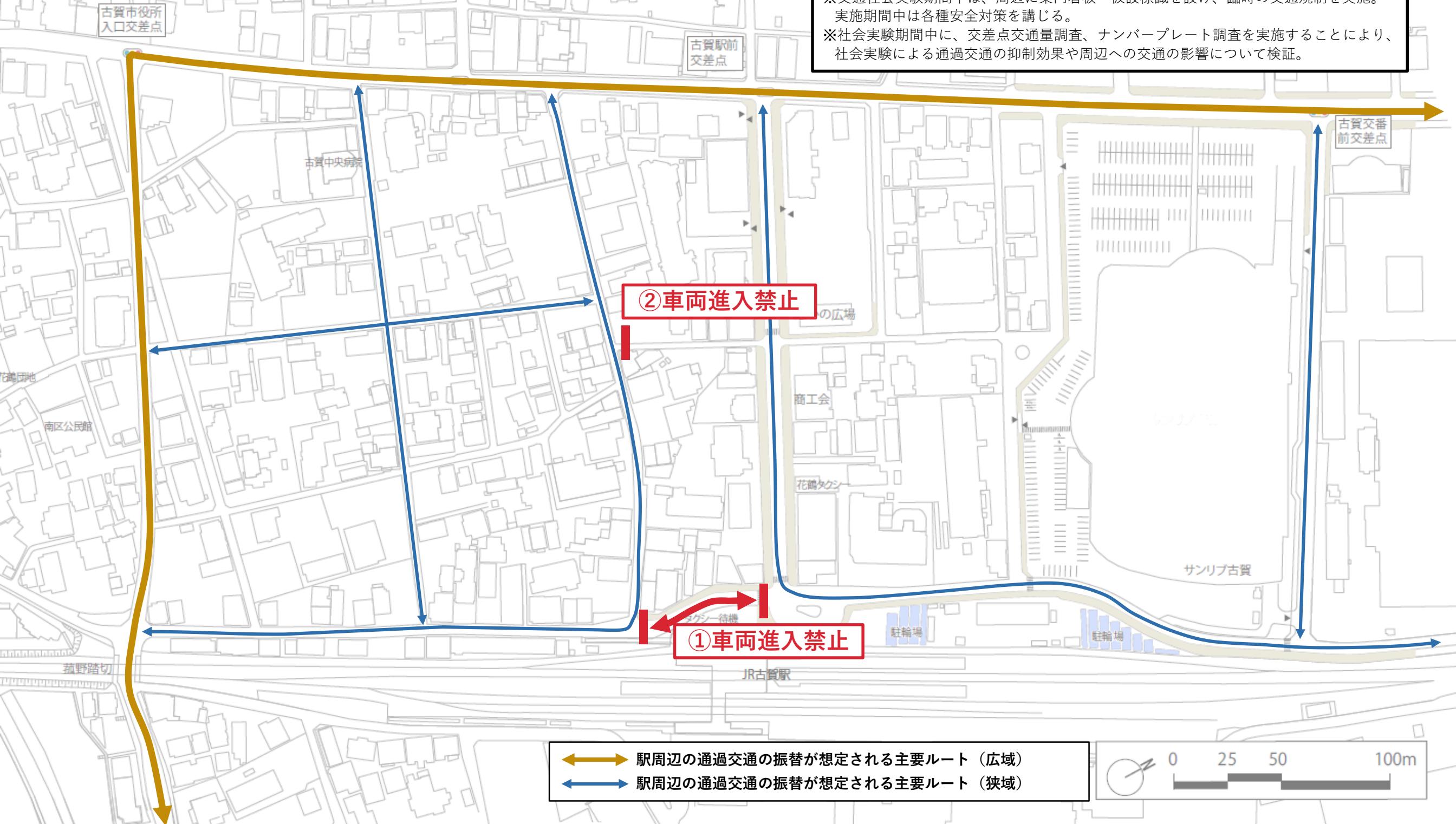
駅前広場整備に向けた通過交通を抑制する交通パターン (車両進入禁止)

- ①通過交通排除のため、駅前広場から南側方面 (商店街方面) 間で車両進入禁止とする
- ②①の措置により抜け道利用として迂回する車両が想定されるため、車両進入禁止とする

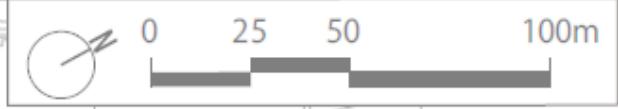
【実施概要】

日時：2025年10～11月頃 (予定)
期間：交通社会実験 7日間 (終日)
沿道利活用社会実験 1日間

※交通社会実験期間中は、周辺に案内看板・仮設標識を設け、臨時の交通規制を実施。実施期間中は各種安全対策を講じる。
※社会実験期間中に、交差点交通量調査、ナンバープレート調査を実施することにより、社会実験による通過交通の抑制効果や周辺への交通の影響について検証。



↔ 駅前周辺の通過交通の振替が想定される主要ルート (広域)
↔ 駅前周辺の通過交通の振替が想定される主要ルート (狭域)



沿道利活用社会実験 (2025年10～11月頃実施予定)

まちかどのにぎわい創出

・整備基本方針で示す重要となるまちかどを中心に、にぎわい創出のための出店や環境構築を実施。

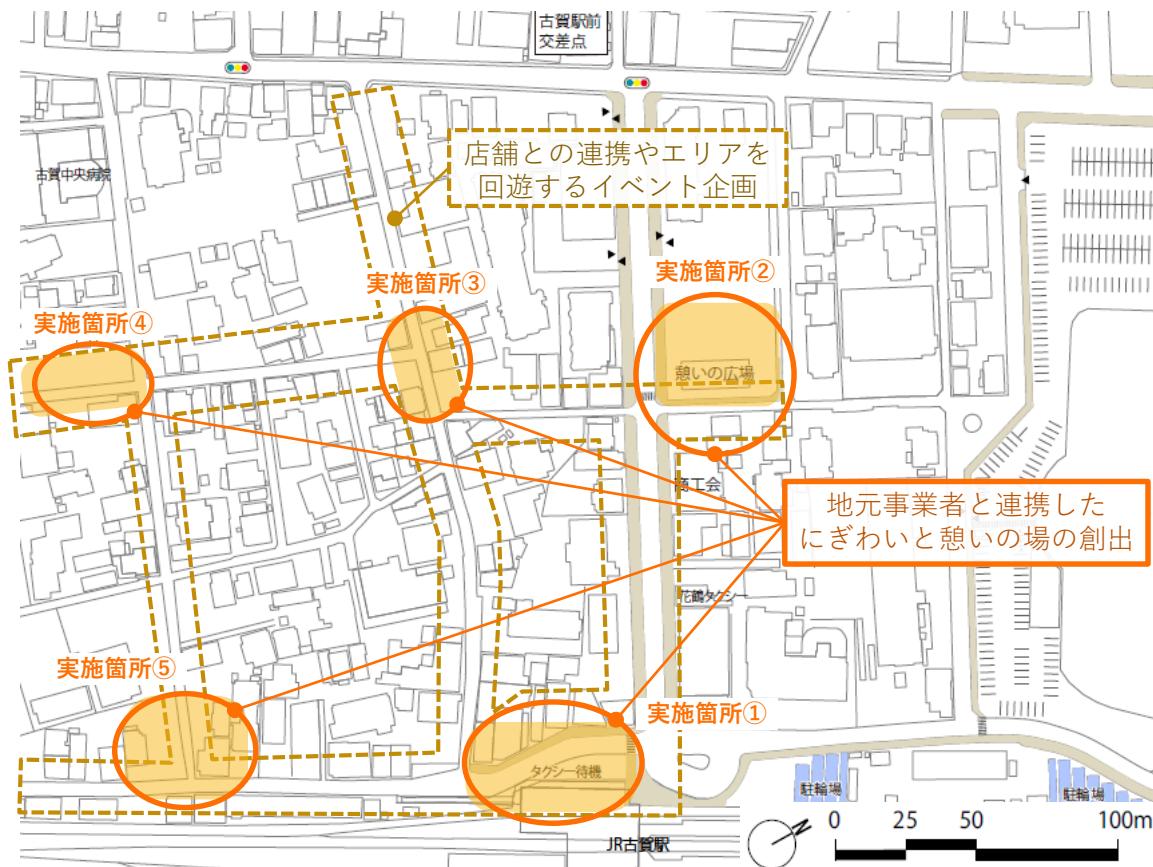
- 地元事業者と連携した出店・企画
- ・まちかどのにぎわいづくりのために、地元事業者や活動団体と連携し、出店やイベント等の活動を実施。
- 快適性を向上する設え
- ・来場者やイベント参加者に快適に時間を過ごしてもらうために、ベンチ、テーブル、人工芝等を配置し、環境を構築する。

まちなかへの回遊を促すにぎわいづくり

・まちなかの回遊を促すための、にぎわいをつなぐ沿道の利活用や設えづくり、周辺店舗と連携したイベントを実施。

- 周辺店舗との連携、駐車場等の活用
- ・沿道の店舗や駐車場と連携し、駅やまちかど同士の賑わいの連続性を創出。
- フラッグやバナー、サイン、マップ等の作成・設置
- ・歩行者の誘導、社会実験の周知、雰囲気醸成のためのフラッグやバナー、サイン、マップ等を作成・配置

沿道利活用社会実験のイメージ



【実施概要】

日時：2025年10～11月頃 (予定)
期間：交通社会実験 7日間 (終日)
沿道利活用社会実験 1日間

過年度 (2023年) の社会実験の様子

